


産地生産基盤パワーアップ事業の取組事例(平成28年度:大崎市農業再生協議会)(宮城県)

取組の概要

取組の概要 : そばの産地形成の推進
 計画作成主体 : 大崎市農業再生協議会
 対象品目 : そば(産地面積59.6ha)
 主な取組主体 : 株式会社スマイルフィールド
 成果目標 : そばの販売額10%以上の増加
 助成金の活用状況 : 生産支援事業(低温貯蔵庫)

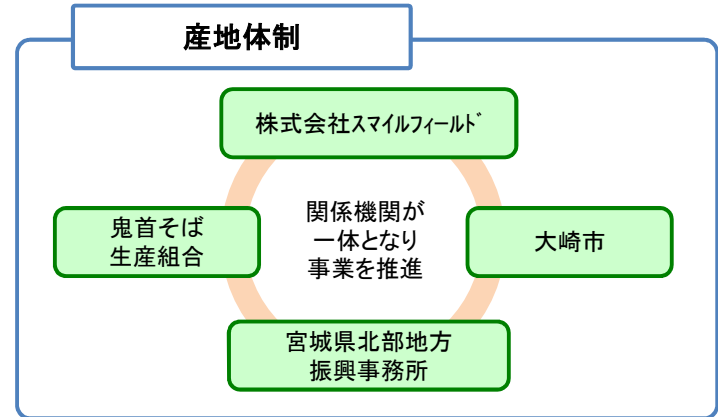


宮城県
大崎市
鳴子温泉地区

ポイント

【産地の課題及び取組方向】
 そばについて「備蓄設備(低温貯蔵庫)導入」により、①品質・量の安定供給→②そばの産地として評価される→③産地としてのブランド化(信頼)→④生産意欲の向上(生産性向上)の好循環を生み出す。

【産地の体質強化に向けた方策】
 高品質なそばを安定的に供給するために必要なそば低温貯蔵庫を導入することによって、販売額の10%以上の増加を実現。




地域における独自の取組

〈主な取組〉

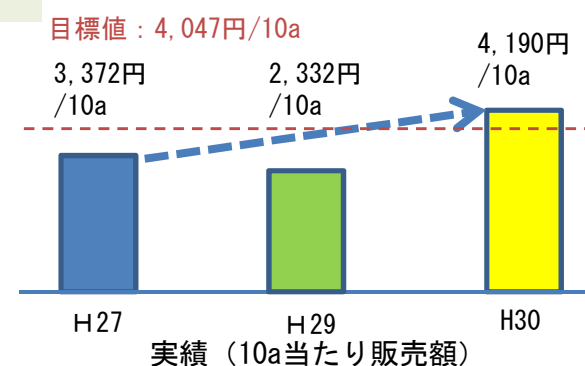
- 栽培マニュアルの公開(産地内限定)及び研修会を開催。
- 鳴子温泉郷を訪れるお客様等に、地元産そばにこだわったメニューで、おもてなしが出来る「蕎麦カフェ」事業を展開

取組成果

【事業実施による直接効果】
 ・低温貯蔵庫を導入することにより高品質なそばを安定的に供給し、販売額の増加を実現。更に新規事業として「蕎麦カフェ」をオープンすることで、産地としての認知度を高め、更なるブランド化を図る。



販売額が24.3%増加(達成率121.2%)



年度	実績(10aあたり販売額)
H27	3,372円/10a
H29	2,332円/10a
H30	4,190円/10a

目標値 : 4,047円/10a